

国際婦人デー東京集会に寄せられた海外からのメッセージ  
大韓民国からのメッセージ  
あらためて、3・8国際婦人デーを迎えるにあたり

労働社会科学研究所 運営委員会

日本の労働者同志たち！お元気ですか？ 韓国の労働社会科学研究所運営委員会です。国際連帯の日である3・8国際婦人デーを迎えるにあたり、日本の労働者同志たちに連帯の挨拶を申し上げます。よく知られているように、偉大な女性革命家の先輩であるコロンタイは一九〇九年、『婦人問題の社会的基礎』の序文でこのように述べました。「ブルジョワ・フェミニストのスローガンは『すべての階級の女性たちよ、団結しよう！』であるが、史的唯物論の支持者たちは、今日の一般的社会問題とは別に特別に女性問題が存在するとしている点でそれを受け入れることができない。女性の従属の背景には特定のある経済的要因が存在する。女性は、新しい社会の社会的生産のやり方で組織された世界においてのみ、真に自由で平等たり得る。だがそのことは、現代社会の体制の枠内においても部分的に女性の人生が向上され得ることを否定するものではない。」

そして一九一〇年八月二十六・二十七日にはコペンハーゲンで開かれた国際社会主義婦人会議に参加し、クララ・ツェトキンとともに、毎年三月八日を国際婦人デーとすることを提案しました。

一九〇八年、アメリカの女性繊維労働者たちが一〇時間労働制と女性の選挙権を要求してストライキをしたことを契機として、一〇〇年以上にわたり全世界の女性労働者たちが、当面する経済的要求のみならず帝国主義と戦争に反対するためにも声を一つにしてきました。

日本帝国主義から“解放”された朝鮮は、南北に分断され、自主的統一国家の樹立に失敗し、南朝鮮では労働者・民衆を銃剣で弾圧しながら新植民地的な単独政府が樹立されました。

朝鮮戦争は数百万の民衆を死に追いやりました。そして韓国では、反共を掲げた歴代独裁政権と国家保安法の監視のもと、社会主義者たちにより創られた国際婦人デーの行事を公に開催することができませんでした。一九八五年になって初めて、国際婦人デーにあたり韓国女性大会が組織され、一九九八年から韓国の労働組合運動のナショナルセンターである民主労総でも、3・8女性労働者大会を開催するようになりました。

二〇一七年、民主労総は、男性労働者の平均賃金を一〇〇とすると女性労働者の平均賃金は六四に過ぎない、ならば「午後三時に退勤しよう」と、男女賃金格差解消運動である「三時stop運動」を強く主張しました。二〇一八年、韓国社会に広まった「ミー・トゥー運動」を契機に、二〇一九年、民主労総は「採用・転換・配置・訓練・昇進等あらゆる雇用過程における性差別の解消、男女賃金格差解消、#METOO性暴力といじめのない職場、すべての労働者に労働組合を！」という要求を掲げて、3・8全国労働者大会を準備しています。

ただ民主労総の3・8大会の基調はいまだ、前述のようにコロンタイが言った「現代社会の体制の枠内において部分的に女性の人生を向上させること」にとどまっています。

女性が真に自由で平等になるための新たな世界への志向が抜け落ちています。また、朝鮮半島の平和をめぐる最近の南北、朝米首脳の華やかな美辞と会談にもかかわらず、朝鮮への制裁解除と平和協定締結、国家保安法撤廃、在韓米軍撤収と韓国の労働者・民衆的な要求が提示されていないことは残念なことです。

国際婦人デーはその由来と精神において、女性が男性と対立して闘おうという日ではなく、女性労働者が男性労働者と団結して資本と闘う日です。ですから、資本の利益のための戦争と軍国主義に反対する女性労働者たちの運動はより大きくならなければならないともいえます。

最後に、日本軍性奴隷被害者であり、近ごろ亡くなられたキム・ボクトンさんとクアク・エナムさんを追悼します。戦争と軍国主義、帝国主義に反対して韓・日労働者がともに闘うことを確信しています。

万国の労働者よ、団結せよ！

二〇一九年三月五日

【訳＝日向よう子】

（『思想運動』1039号 2019年4月1日号）